

島内小学校では 食生活改善推進協議会 が災害食体験を実施

島内小学校の6年4組では、昨年度からの総合の時間を活用した防災学習の一環で、災害時にも使える「パッククッキング」で炊飯とカレー作りに挑戦しました。当日は参観日



▲島内小学校 6月24日に実施したパッククッキング講習

で親御さんと一緒に体験をしました。指導は地区内で活動している食生活改善推進協議会の委員の皆さんでした。お米と水、野菜とカレールウと水をそれぞれ入れた耐熱性の厚めのポリ袋を、水を沸騰させた鍋に入れて40分ぐらいすると、ご飯もカレーも出来上がっていました。カセットコンロを使ってもできるので、災害時にも活用できます。

児童からは「本当に袋でカレーができるか心配だったけれど実際にやってみるとできたので、家でもやってみて、やり方を覚えて災害時に炊き出しをやってみようと思った」「災害の時は水の一滴一滴がすごく大事なことが知れてよかった。また作ってみたい」「災害が起きたら落ちついて調理をしたいと改めて思った」といった感想が聞かれました。

災害時を想定して 日ごろから関係づくりを



ほっとハウスしまうちの家と南中町会との交流事業

介護保険事業所と地域との連携事業は、防災モデル事業の大きな柱の一つです。

昨年度は、河西部地域包括支援センターが主導して、災害時を想定した事業所BCP(業務継続計画)の作成を目指した学習会を開催しましたが、今年度はその流れで、市が福祉避難所に指定している施設系事業所とともに、①福祉避難所へ直接避難の対象となる重度者をどう抽出するか ②災害時に地域と事業所が連携できるように日ごろからどのような関係づくりをしたら良いか の二つについて研究を進めました。

①については、抽出のためのトリアージシートを作成して試行し、おおむね実態と合っているところまで精度を高められています。②については、町会と合同で訓練と内覧会を実施した事業所や、町会の行事を事業所の駐車場で実施し、施設の入所者も参加するなど、相互理解と関係づくりが少しずつ進められています。

初開催!! 島内地区 防災フェスティバル

初めてとなる島内地区防災フェスティバルが、9月9日(土)に島内小学校の校庭及び体育館を使って開催されました。

今回、「キャンプ×防災」と銘打って地区単位での開催を持ち掛けた岳都・松本山岳フォーラム実行委員会が「言い出しっぺ」となって地区の内外関係者に呼びかけたところ、消防団やガールスカウトなど9団体が集まり、実行委員会を組織して当日の企画や運営を行いました。

校庭では火起こし体験や炊飯体験、携帯トイレの体験など、「キャンプ×防災」のブースのほか、消防団による放水体験、なりきり団員体験ブースなども設けられました。体育館でも、火災時などに煙から逃げる講習や、不安解消のためのタッチケア、ドローンのデモフライトなどのブースも設けられ、のべ350人が参加をしました。



▲防災フェスティバル 好評だった放水体験

全戸配布

島内地区 モデル事業だより

《No.4》 2024.3.30

発行
島内地区防災モデル
事業実行委員会

☎47-0264/FAX40-1264

地域づくりセンター強化 防災モデル事業も区切り

島内地区は松本市が実施する「地域づくりセンター強化モデル事業」に令和二年度年から取り組みました。「防災」を切り口とした重点事業は、町会活動を地区が支援する形で進めてきました。三年間限定事業であるため、市が支援する事業としては本年度末で終了となります。

令和五年度各モデル町会では… 「アレ」目指して「これ」で活動

大規模な災害を想定したとき、防災の事業を進めるうえでは、町会や近隣のつながりを活用することが理想であることから、「モデル町会」に手を挙げていただき、年間を通じて、各町会の問題意識に沿った活動をつくり上げました。

安否確認と避難支援の ための情報を常会ごと に集約……高松町会

高松町会は、本村・

本郷・南部の三つの常会に分かれており、もともと常会ごとの活動が盛んで、町会とは別に常会の事業計画や



▲高松町会本村常会 11月25日 隣組長への説明会のようす

予算をもつて活動しています。

今年度は防災モデル事業実行委員会と共同で、他町会でも活用できる話し合いや情報収集のためのフォーマットを作成することとし、何度か話し合いの場を持ちました。話し合いの結果、防災活動も常会別に活動を構

築することが確認されたため、目標やスケジュール、取り組み内容を常会の役員で話し合いながら取り組みを進めました。

いずれの常会も、災害時の安否確認や避難支援のための世帯情報と要配慮者情報の収集を目的とし、11月末には隣組長を通じて

情報収集するための説明会を開催し、1月末までには情報収集が終了しています。要配慮者を組内の誰と誰がどう支援するか、次の組長へは情報をどう引き継ぐか、などが課題として残されており、今後の継続した取り組みが注目されています。

「いのちの見える化」 目指し、住民みんなで 「はじめの二歩」を ……高松町会

島高松町会では、「いのちの見える化」をスローガンに、三年間を通じて「隣組」単位での話し合いによる「安否確認・避難行動計画」の作成の取り組みを進めてきました。今年度も昨年度までと同様に、二つの常会を対象とし、隣組ごとに①どこに集まるか、②どのよ

うに安否確認をするか、③どんな支援が必要か、④どんな人がいて、どのようか、について話し合いを持ちました。その前段では対象常会(第2と第4)内の隣組長に対する説明と同時に、疑問や不安な点、提案などを出し合っており、グループワークを実施し、全体で共有する機会を2度持ちました。2回目の隣組町会では、質問・疑問に対する市や町会の考え方



▲川東三町会 2月24日に実施した避難所運営訓練

要配慮者情報の更新と訓練の繰り返しで
……平瀬川東・下田・犬飼新田町会

平瀬川東・下田・犬飼新田の三町会は、土砂災害特別警戒区域に指定されています。昨年度までは、アンケートの実施や要配慮者の把握、安否確認マニュアルの作成などに取り組みました。今年度は把握した要配慮者情報の更新



▲島高松町会 11月19日に実施された安否確認訓練

も紹介され、共有することで災害に対する共通理解が進みました。9月23日には、対象第2・第4常会の各隣組長により、各隣組で話し合っただけで「安否確認・避難行動計画」の報告会を開催し、成果の共有も行いました。最初に集まっ

北中町会では、昨年度町会の全世帯に対して家族構成や支援希望の有無を調査し、支援する要配慮者を特定しました。また、隣組の集合場所に集めて安否確認を行ったうえで、北中公民館へ一時避難を行うことを決めました。

今年度は、これに基づいて安否確認・避難シミュレーション訓練等を実施しました。

安心できる町会づくりに向けて訓練で検証
……北中町会

と、安否確認訓練、避難所運営訓練を実施しました。避難所運営委員となつている町会役員に集まっていたら、総務班や衛生班、救護・要援護者班などの活動班の動きをマニュアルに沿った形で体験しました。時間がな

連絡する「両隣を確認してから集合場所へ行って報告」グループLINEを活用するなど、各隣組の特色を活かした「計画」が報告されました。

これを受け11月19日には、町会内の全各隣組による「安否確認訓練」が開催されました。これまで作成された「安否確認・避難行動計画」に沿って手順などを確認し、必要があれば見直す、という趣旨でした。実施後の反省会では「組単位で行動することについて十分な確認ができた」「年に一度の訓練だけではなく他の機会もあればよい」「近所で顔を合わす機会になつてよかった」「日ごろの家庭間の連絡と避難場所や計画を話し合っておきたい」といった声が聞かれました。

町会では一連の取り組みを通じて、町会の災害時の初動体制の構



▲北中町会 リヤカーの組み立て、担架の使用説明

今回の訓練の反省から、一時的に避難する北中公民館が震災時の応急判定を、公民館にいちばん近い隣組がチェックシートを使って行うこととしました。

かつたため、マニュアルを丁寧に確認しながら、というわけにはいかず、戸惑われた方も多かつたようですが、経験を積み重ねることと動き方もわかってくるとも言われています。訓練の積み重ねも必要です。

松島中学校で防災士と松本大学生が学習プログラムを実施

松島中学校では、一昨年度から防災学習を実施しています。今年度も、11月末から12月初めにかけて防災学習を実施しました。1学年向けには、松本大学の防災士学生が作成したプログラムによる事前学習会を実施



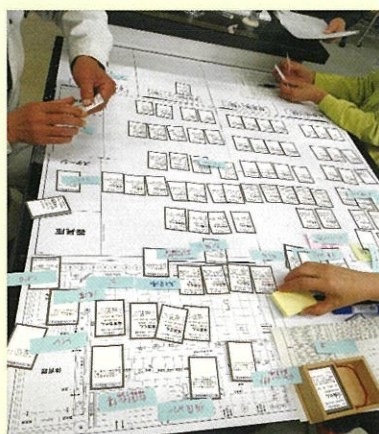
▲松島中学校 1年生向け事前学習

し、1・2学年それぞれに向けて、地区在住の防災士・山崎佳典さんによる「危険予知学習プログラム」を実施しました。

「危険予知学習プログラム」というのは、室内・室外を問わず、どのような災害の場合に、どのような危険がありそうかをイメージするプログラムです。今回は学校周辺の街の写真を使ってグループで話し合いをしながら進めました。

体験した生徒からは「写真や地図を使って分かりやすく危険を学ぶことができてよかった」「災害はいつ起こるか分からないから、普段から防災についての意識を高めて備えることが大切」といった感想が聞かれました。

**将来の島内を担う人材の育成を！
 中学校や小学校でも防災学習を実施**



▲HUG訓練 紙上で避難者を配置

災害があつた際に、市は避難所を設置します。震度6以上の大規模地震が起きた際には、自動的にすべての指定避難所が設置されることになっています。(安全確認によって設置が困難と判断される場合もあります)

島内地区が関係する避難所は、島内小学校、島内体育館、島内公民館、松島中学校、音楽文化ホール、松本筑摩高校(所在は島立地区)の6か所が指定されています。大規模災害の際には住民の皆さんに避難所運営をお願いすることになってお

**避難所運営委員会
 マニュアルや手順を確認**

り、避難所ごとに避難所運営委員会を開催して、運営マニュアルや施設の確認、防災備品や備蓄品の確認などを行っています。

10月12日には島内小学校避難所運営委員会が開催され、避難所運営ゲーム(HUG)訓練を、防災士の山崎佳典さんの指導で行いました。体育館や校庭に見立てた紙上で様々な事情を抱えた避難者が避難してきたときに、運営者側がどのように居住区へ配置するか、グループで考え方を確認しながら進めました。

11月には松島中学校で、地区内の全避難所を対象に地震直後に行う避難所の緊急点検講習も実施しました。



▲島内小避難所運営委員会HUG訓練

築ができたほか、「防災」を通じたコミュニケーションの増進・つなが

りづくりが進んだと評価しています。一方、年度ごとの情報更新や引

き継ぎなど、今後も継続していきけるかが課題となっています。